

導入事例



協立サッシ株式会社

身の回りにある「ドア」は、私たちの生命と財産を守る重要な建具です。協立サッシ株式会社は、主にスチールサッシ・ドアの制作・販売を手がけ1937年に誕生しました。

現在では、防弾用・電波遮断・爆破テロ対策など、高機能なスチールドアを製造するなど、安全性と利便性を最大限に考慮し、建物内の財産や人を守る大切なものという意識で製品づくりに取り組んでいる企業です。

多様化するさまざまな顧客ニーズに対し、迅速かつ適確に応えていくためにいつでも、どこでも、オフィスに居るかの如く、業務が進められるuniConnectの導入に踏み切りました。協立サッシが目指すのは、「ワークスタイルの変革」です。

GS 協立サッシ株式会社

創 立： 1937年2月
 本社所在地： 神奈川県横浜市中区太田町6-87 横浜フコク生命ビル2F
 資本金： 3,000万円
 従業員数： 60名(2011年1月現在)
 事業内容： 金属製建具製造・販売・施工

uniConnectによるユニファイドコミュニケーションを実現。
 iPhoneの導入で、新しいモノに挑戦するマインドを醸成。
 オフィスに戻らなくても業務が遂行できる「ワークスタイル」の確立を目指す。

導入の背景

- PBXの老朽化
- 業務効率の低下
- スマートフォン導入によるビジネス機動性向上の検討
- 子どもを持つ女性が働ける環境づくり

導入の理由

- 場所に関係なく会社番号による電話の発信を実現
- 既存のメールシステムとの連携
- GUIベースのインターフェイスでPBXの設定変更が可能
- リモートワイプによるiPhone紛失・盗難対策

導入の成果

- モバイル環境でのメール送受信
- 外出先から会社番号での発信
- 既存メールシステムとの連携
- 営業スタッフの荷物軽量化
- 最新スマートフォン貸与による従業員満足度の向上

業務効率の改善と

気持ちの若返りが急務

協立サッシは1937年、横浜にてスチールサッシ・ドアの製造・販売を担う会社として創業。電波シールド・防弾・防爆性能を高めたセキュリティドアや、防音・気密・断熱に優れた高機能なアメニティドアの製造から、駅構内のスチール製のダストボックスなどの製造も行っている。

長年にわたって、時代のニーズを捉えたドアを作り続けてきた従業員の平均年齢は、40歳を超える。協立サッシ総務部執行役員の小室典江氏は、従業員が成熟していく一方で、昨今の変化の激しい時代において、業務への取り組み方などを含めて『気持ちの若返り』が必要だと考えていた。

協立サッシの営業スタッフは、CADの図面やカタログを持って建築現場を訪問することが多い。特に建築中のビルなど高層階での仕事もあ

るため、少しでも荷物を減らすなどの工夫が必要であることから、モバイルPCを貸与してこなかった。また、PCを持ち出すとなれば、安全なネットワーク接続のために、追加のインフラ投資が必要になるという事情もある。

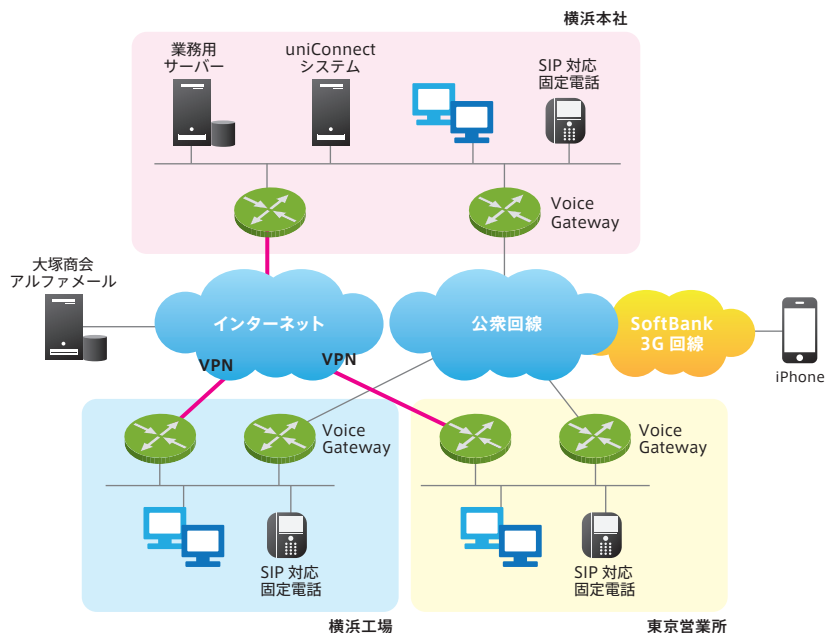
内線端末としてPHS端末を利用していたが、協立サッシのPBXは導入して既に10年が経過し、老朽化が進んでいた。外出の多いスタッフは、電子メールを携帯電話に転送して機動性を補っていたという。

ファイル添付などのない、通常の電子メールの受信ならば問題はない。しかし、添付されたファイルの確認が必要な場合、携帯電話ではその場でファイルを開くことができなかった。さらに受け取ったメールに返信をすると、返信元のメールアドレスがNTTドコモの携帯メールのドメインになってしまい、送受信でメールアドレスが統一されないことが課題になっていた。

次第に、スタッフは外出先でメールをチェックするだけで、返信メールを書いたりスケジュールを確認したりするために、その都度オフィスに戻ってくるようになった。この様子を見て、小室氏は「業務効率を改善する必要がある」と語る。

iPhoneの機動性をビジネスに活かす
働く女性を支援するuniConnect

小室氏は、スマートフォンの機動性に着目した。個人的にもiPhoneを所有しており、ビジネスでの活用に期待をふくらませていた。協立サッシにiPhoneの導入を勧めていた携帯販売を通じて、小室氏はエス・アンド・アイの『uniConnect』を知る。単なるiPhone導入に終わらせたくない、と考えていた小室氏は、iPhoneのより先進的なビジネス活用を実現するソリューションとして、エス・アンド・アイにuniConnectの説明を求めた。



小室氏は、まず uniConnect をフル活用して仕事と育児を両立しているエス・アンド・アイの女性営業担当のワークスタイルに注目した。小室氏はかねがね『子どもを持つ女性が働ける環境づくり』をしたいと考えていた。専門性の高いスキルを持った女性スタッフが、結婚・出産などをハードルとせず、能力を存分に発揮することができる会社にするのが理想だった。iPhone 1台で、内線と外線の両方を使い分けられる uniConnect の FMC (Fixed Mobile Convergence) 機能を活かしたワークスタイルは、小室氏の共感を呼んだ。「iPhone と uniConnect があれば、子育てのために定時に会社を離れていても、どこからでも会社の番号で顧客と会話ができるはもちろん、電話会議なども自ら主催して行うこともできる」

iPhone / ソフトフォンの導入をきっかけに新しいワークスタイルの確立へ

小室氏は uniConnect の導入を決断した。「iPhone を手にすることで、社員に新しいものを受け入れる姿勢、新しいものに挑戦するマインドを醸成できるのではないかな」。小室氏は、『uniConnect』導入によるワークスタイルの革新が、社員のマインドを変えるきっかけになると考えたのだ。

協立サッシの横浜本社と横浜工場、東京営業所の各拠点は、インターネット VPN で接続されている。横浜本社に uniConnect シス

テムを導入し、各拠点に設置されていた PBX を撤去することになった。代わりに各拠点には、公衆回線収容用機器と Cisco VoIP Gateway が設置され、代表電話用に SIP 対応の固定電話が設置された。個人デスクには電話機を置かず、ソフトフォンで対応。拠点間の通話は VPN 経由で IP 網を使用する。営業スタッフの iPhone には、ダイヤルイン番号を割り振り、他のスタッフは部門代表番号の発信を設定することにした。

uniConnect を IP-PBX として捉えたときに、小室氏はその操作性に着目した。「コマンドラインで設定していく従来の PBX に対して、GUI (グラフィカルユーザーインターフェイス) で扱えるので、uniConnect なら自力で設定変更などが行える。これは非常にありがたい」

既存の外部サービスとの連携 柔軟性の高い uniConnect

協立サッシのメールシステムは、これまで大塚商会が提供する『アルファメール』を利用して、『アルファメール』は、スマートフォンとの同期ができないことから、uniConnect システムのメール機能の利用を提案した。しかしア

ルファメールのウイルススキャンなど重宝している機能が合ったため、協立サッシは継続利用を希望。アルファメールで受信したメールを uniConnect システムに取り込み、そのメールを AirSync で iPhone と同期する仕組みを取り入れた。Excel で管理していた社員のアドレス帳は、すべて uniConnect のアドレス帳に変換され、常に全員の iPhone と自動同期が行われるようにした。

2010年12月、仕事納めを目前にした協立サッシ横浜本社に uniConnect システムが設置され、NTT ドコモの携帯電話から iPhone への切り替えが行われた。すべての iPhone に uniConnect ダイアラーがインストールされ、正式リリースとなった。

uniConnect 導入による従業員満足度の向上と機密情報の漏えい対策

建築現場で図面を確認する機会が多いスタッフは、これまでは大量の CAD 図面を鞆にいれて現地に向かっていった。uniConnect の導入後は、図面を PDF 化して、iPhone で持ち歩ける。機密データを持ち運ぶことになるため、iPhone の紛失・盗難による情報漏えい対策として、uniConnect のリモートワイプ機能を導入した。iPhone を紛失した際に、リモートから iPhone を初期化することができる仕組みだ。音声ガイドに従うだけで、紛失した人が自身で初期化できるように拡張することも可能だ。ログも残るため、P マークを取得している企業にとっては監査の証跡にもなり、非常に重要な機能だ。

uniConnect の導入は、話題のスマートフォンをビジネスに活用できるという喜びから従業員満足度の向上に結びつき、急ぎのメールにもいちいちオフィスに戻らなくても即座に対応できるようになった。小室氏のイメージしたワークスタイルが、ついに実践フェーズに入ったのだ。さっそく現場からは「iPhone で受けた電話を転送したい、などの具体的な要望があがります。今後はたくさんある便利な iPhone アプリケーションも活用しながら、社員のワークスタイルがよりアクティブに変化していくことでしょう」小室氏は、iPhone での保留・転送を可能にする uniConnect バージョン 2 に、大きな期待を寄せている。協立サッシの新しいワークスタイルは、その頃までに確実に定着していることだろう。



お問い合わせ

エス・アンド・アイ株式会社

〒103-8507 東京都中央区日本橋浜町3-42-3 住友不動産浜町ビル TEL: 03-5623-7353
URL: <http://sandi.jp/> E-Mail: info@sandi.co.jp

【関西営業所】〒550-0013 大阪府大阪市西区新町2-4-2 なにわ筋 SIA ビル

TEL: 06-6536-6126

【中部営業所】〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦町3-1-1

TEL: 052-954-3512

【西部営業所】〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前3-26-29 IBM ビル 6F

TEL: 092-482-5326

※製品内容は、予告なく変更される場合があります。 ※記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

